

令和4年度大学図書館職員短期研修

情報リテラシー教育支援の現状

- 東北大学附属図書館の事例 -

東北大学附属図書館 情報サービス課学習支援係

堀野陽子



本日お話しすること

基本事項の確認など

- 大学図書館における情報リテラシー教育支援とは
- 大学図書館に何が求められているか

本日お話しすること（続き）

東北大学附属図書館の事例

☆ ☆ 他部局等との連携による情報リテラシー教育支援を中心に ☆ ☆

- 事例1：初年次必修授業「学問論」への支援
- 事例2：授業「中級アカデミック・ライティング」への支援
- 事例3：オーダーメイド講習会
- 事例4：留学生コンシェルジュの活動

本日のゴール

- ① 大学図書館における情報リテラシー教育支援とはどのようなものかを理解する
- ② 大学図書館に何が求められているかを理解する
- ③ 様々な事例を知る（東北大学の事例）

自己紹介：今までの職務経歴

- 東北大学附属図書館北青葉山分館：雑誌業務（2003.10～）
- 東北大学附属図書館工学分館：ILL業務（2007.4～）
- 仙台高等専門学校名取キャンパス：図書館業務全般（2010.4～）
- 東北大学経済学研究科図書室：図書室業務全般（2017.7～）
- 現在：東北大学附属図書館本館学習支援係（2019.7～）

図書館職員19年目

自己紹介：現在、学習支援係として

主な業務：
講習会事業・留学生サービス
国際機関の寄託図書館としての活動
（国連寄託図書館・EU情報センター）

その他：

- クラウドファンディング事業「漱石の肉筆を後世へ！ 漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」事務局（2019）
- 全国大学ビブリオバトル地区予選会（東北ブロック）開催予定（2022.10.28）
- 高校生ビブリオバトル宮城県大会 共催予定（2022.12.4）

東北大学について



- 宮城県仙台市に所在する総合大学
- 東北大学の理念は「研究第一」「実学尊重」「門戸開放」
- 2022年は創立115周年、
総合大学として100周年の節目の年を迎えた



東北大学附属図書館について

東北大学附属図書館の構成

本館
(川内キャンパス)



医学分館
(星陵キャンパス)



北青葉山分館 (理薬)
(青葉山キャンパス)



工学分館
(青葉山キャンパス)



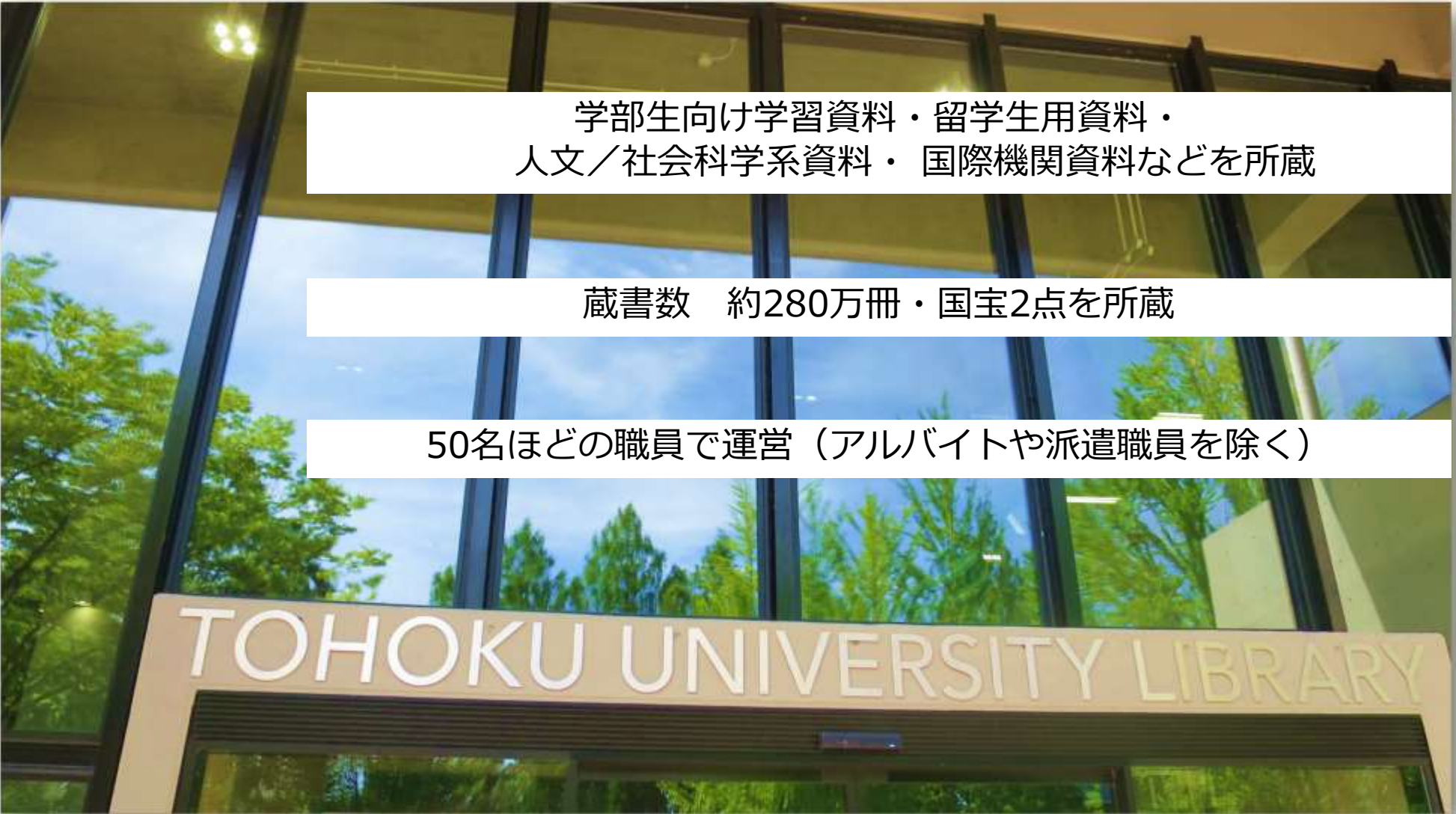
農学分館
(青葉山キャンパス)



部局図書室
(片平キャンパス等)



東北大学附属図書館本館について



学部生向け学習資料・留学生用資料・
人文／社会科学系資料・ 国際機関資料などを所蔵

蔵書数 約280万冊・ 国宝2点を所蔵

50名ほどの職員で運営（アルバイトや派遣職員を除く）

TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

東北大学附属図書館本館について

2022年は創立111周年の メモリアルイヤー



2022年9月 オリジナル羊羹の発売

全国大学ビブリオバトル2022

BIBLIO BATTLE

地区予選会 in 東北大学

ビブリオバトルとは？
バトルー（出場参加者）たちがおすすりめ本を持ち合って1人5分のプレゼンテーションを行い、観客とバトルーが一番読みたくなった「チャンプ本」を決める知的書評合戦です。

日時：令和4年10月28日（金）16:50-18:15
場所：東北大学附属図書館本館 グローバル学習室

出場資格
大学生（学部生 / 院生）
大学生相当年齢の高専生
専門学校生
短大生
履修生 等（9月卒業生も出場可）

観戦方法
対面（定員：30名）
オンライン（定員：300名）
どなたでも観戦いただけます。
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、オンライン観戦のみとなる場合があります。

出場者&観覧募集中！


（出場者募集人数：5名 ※定員に達し次第締切）
※本大会は二回に分けて行われ、優勝者は「第1回全国大学ビブリオバトル」の予選会です。
予選会でチャンプ本を募集すると共に地区決勝へ、地区決勝で観戦したくにお出願への出場権を募集します。

各申込・お問い合わせ
左のフォームよりお申し込みください。
観戦申込締切：10/14（金）
観覧申込締切：10/21（木）

主 催：東北大学附属図書館 学芸室
E-mail: gakuho@gru.tohoku.ac.jp



2022年10月 記念イベントの開催
(全国大学生ビブリオバトル2022の地区予選会)



大学図書館における 情報リテラシー教育支援とは

大学図書館における情報リテラシー教育支援とは

情報リテラシー（教育）とは：

「情報を主体的に利用すること。また、それを育成するための教育のこと。情報の利用には、情報の探索、評価、利用、発信といった一連のプロセスが含まれる。」

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会（平成22年12月）

大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－より

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm （閲覧日2022.10.12）

情報リテラシーとは：

本基準においては、「情報リテラシー」を「高等教育の学びの場において必要と考えられる情報活用能力」、すなわち「課題を認識し、その解決のために必要な情報を探索し、入手し、得られた情報を分析・評価、整理・管理し、批判的に検討し、自らの知識を再構造化し、発信する能力」と定義する。

JANUL高等教育のための情報リテラシー基準 2015 年版より

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>

(閲覧日2022.10.19)

大学図書館における情報リテラシー教育支援とは

情報リテラシーとは：

自立した生涯学習者であるために、情報を探し出し、評価し、効果的に活用し、情報のさまざまな形態を活用できる能力。図書館の教育サービスの基本にある考え方である。

山内祐平(2010)「大学の学習空間をデザインする」, 渡部信一編『「学び」の認知科学事典』大修館書店, pp.239-249 より

大学図書館における情報リテラシー教育支援とは

学術情報について：

大学図書館であつかうもの

あつかわないもの



・・・などなど

大学で実施される情報リテラシー教育（支援）の例

ライティングを学ぶ
授業

学習相談の窓口・イベント

理系の実験レポート作成を学ぶ
授業

図書館の活動
（図書館の利用方法・
図書館資料の探し方）

分析・加工・アウトプットの
教育までは行っていない

大学図書館における情報リテラシー教育とは

- 図書館が担っているのは、
大学の情報リテラシー教育の一部である（全体ではない）

学術情報の
リソースとしても一部

担うことができる
教育としても一部
- 図書館に来る事、図書館のリソースを活用することは、
手段であって、目的ではない

大学図書館における情報リテラシー教育とは

学習や研究において必要な情報リテラシーを
いかに利用者に身に付けてもらうか

大学図書館として可能なサポートを考える

(できれば、独りよがりにならない方法も考える)



大学図書館に何が求められているか

大学図書館に何が求められているのか

科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について（審議のまとめ）：

変革する大学にあって求められる大学図書館像」（平成22年）

1.大学図書館に求められる機能・役割及び戦略的な位置づけ

（3）大学図書館に求められる機能・役割

1.学習支援及び教育活動への直接への関与

イ.教育活動への直接の関与

大学図書館に何が求められているのか

学生が大学を卒業して以降も生涯にわたって自ら学習し、課題解決するためには、電子情報資源、印刷物を含めて、適切な情報を得るために各種ツールを使いこなし、得られたデータや情報を分析・評価し、その成果を分かりやすく表現し、発信する能力を身に付けることが求められている。

大学図書館に何が求められているのか

（略） 大学においてはさらに踏み込んで、大学図書館の利用方法を含めて、情報を探索し、分析評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育が必要である。

大学図書館に何が求められているのか

（略） 情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められている。例えば、初年次教育の一環として必修の授業として開講することが考えられる。カリキュラムの開発や実施を教員と協同して行うだけでなく、図書館職員が教員を兼任するなどして直接授業を担当することも視野に入れるべきである。

- ・ 教員との連携
- ・ 授業への直接的な関与

大学図書館に何が求められているのか：私の考え

図書館単体で 行うもの

- 講習会
- オリエンテーション
- ツアー などなど



教員や他部署など との連携

- 講習会
- オリエンテーション
- ツアー などなど

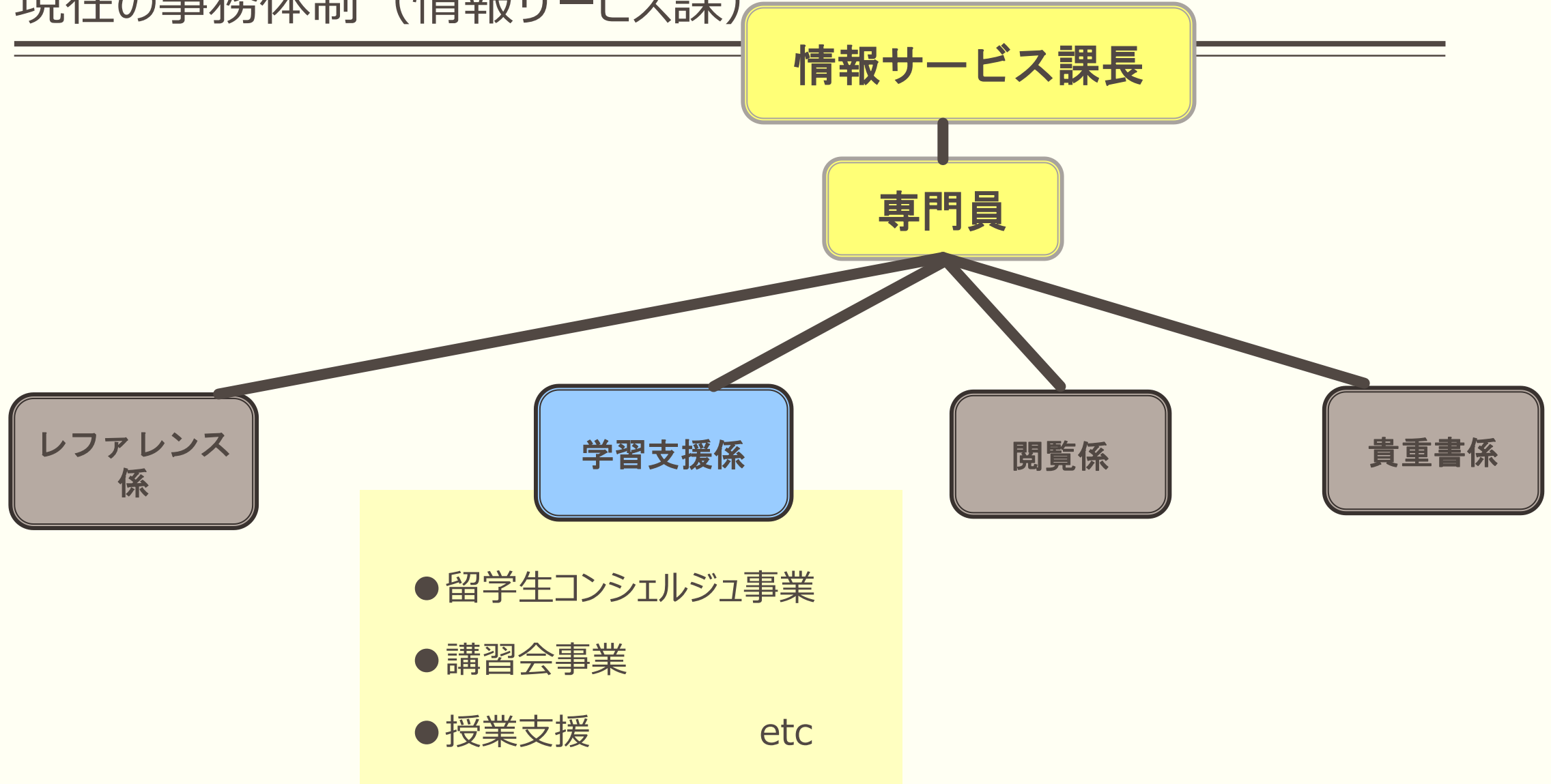
こちらに一層力を入れることで
より効果的な情報リテラシー教育の支援が可能に



東北大学附属図書館の事例

他部局等との連携による情報リテラシー教育支援を中心に

現在の事務体制（情報サービス課）



人員の配置

情報サービス課長

専門員（１）

学習支援係（２）



係長（私）



係員（１）



留学生スタッフ（１０）

教員を中心とした委員会体制

附属図書館商議会

学習支援委員会
(教員中心)

学習支援実施部会
(職員中心)

学習支援委員会の主任務：

- 学習支援事業の方針策定
- 学習支援事業全体の企画・立案

委員会の方針に基づいた学習支援事業を具体的に計画し、遂行するための部会が、委員会の下に置かれている。

教員を中心とした委員会体制

学習支援委員会

- 委員長：附属図書館副館長（文学研究科 教授 1名）

- 委員：

生命科学研究科 教授 1名

生命科学研究科 准教授 1名

高度教養教育学生支援機構 教授 1名

高度教養教育学生支援機構 准教授 2名

附属図書館 事務部長 1名

合計7名

教員を中心とした委員会体制

学習支援実施部会 (図書館職員)

主査：情報サービス課長
事務：学習支援係長（私）

人文系分野
・本館（2名）

生命科学系分野
・医学分館（1名）
・農学分館（1名）

理工系分野
・北青葉山分館（1名）
・工学分館（1名）
・金属材料研究所図書室（1名）

合計9名

事例1：

**初年次必修授業
「学問論」への支援**

「学問論」とは

- 令和4年度教養教育科目「全学教育科目」のリニューアルに伴い、新設された授業。
- すべての学部1年生（約2400名）が受講する。
- 学習の到達目標（シラバスより抜粋）：
 1. 「大学で学ぶ」ことの意味と目標を自分なりに見出し、それを説明できる
 2. 学問や研究に携わることに興味関心と責任感を持ち、主体的かつ協同的に学習している
 3. データや情報の収集および使用について基本的な知識・技能・態度を習得し、
自分の意見を適切に論述することができる

①教材「東北大学レポート指南書」への執筆参加

「東北大学レポート指南書」とは？

- 2017年初版発行。現在第3版まで発行済み
- 新入生全員へ冊子版を配布している
- 発行の背景と目的

「大学のレポートには様々なタイプがあるが、本書が主な対象とするのは、文献に基づいて論証を行うレポートである。本学では理系の実験レポートについては、「自然科学総合実験」という科目で手厚い指導が行われている。一方、文献に基づくレポートに関しては、全学的な指導体制がなく、何をどう書けばよいかわからないという声も学生から上がっていた。こうした現状を改善したいと考えたのが、本書発行の背景にある。」（第2版 前書きより抜粋）

- 第3版は、「学問論」の教材として使用することを想定して改訂された。



「東北大学レポート指南書」表紙

①教材「東北大学レポート指南書」への執筆参加

「東北大学レポート指南書」とは？

- 高度教養教育・学生支援機構の教員4名に加えて、附属図書館の学習支援実施部会が、「第3章 文献の収集」の執筆を担当した。

- PDF版が、Web上で公開されている。

<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/handbook/>

(閲覧日：2022.7.20)

目次 Contents

前書き Preface	1
第1章 執筆の準備 Preparing for Writing	2
1.1 レポートの意義を知る Rationale for Writing	
1.2 研究との関係を理解する Research and Writing	
1.3 主題類型を意識する Types of Theses	
1.4 課題を確認する Checking Assignment Instructions	
第2章 文章の作成 Planning and Drafting	10
2.1 文章を書く Sentences and Paragraphs	
2.2 構成を考える Organization of an Academic Essay	
2.3 論理的に展開する Writing Logically	
第3章 文献の収集 Gathering Sources	16
3.1 文献の種類と特徴 Features of Information Sources	
3.2 検索ツールを活用する Utilizing Search Tools	
3.3 文献を記録する Recording What You Read	
第4章 文献の引用 Citing and Referencing	22
4.1 誠実に学び研究する Understanding Academic Integrity	
4.2 引用する Citing Sources	
4.3 書誌情報を明示する Writing References	
4.4 図表を示す Incorporating Visuals	
第5章 執筆の省察 Reflecting on Your Writing	30
5.1 推敲する Revising	
5.2 振り返る Reevaluating Your Writing	
参考文献 References	34
資料1 レポートのイメージ Sample Assignment Format	36
資料2 関連ウェブサイト等 Related Websites	36

①教材「東北大学レポート指南書」への執筆参加

●第3章 文献の収集

3.1 文献の種類と時間

3.2 検索ツールを活用する

3.3 文献を記録する

東北大学レポート指南書

3.3 文献を記録する Recording What You Read

■書誌情報を記録する

文献を特定するための情報を書誌情報という。先に書誌情報の記録を正しく行っておくことで、参考文献の一覧[巻末「参考文献」参照]が必要となったときに効率的に作成することができる。

(1) 図書の場合

主に奥付(最終ページ。「おくづけ」と読む)を見る。出版年は、例外もあるが、原則として最新の版が最初に出た年を採用する(図3-5)。

図3-5は、奥付と記録の例を示しています。左側には「青草山の野生動物」の奥付が示されており、初版第1刷発行(2013年〇月〇日)、第2版第1刷発行(2015年〇月〇日)、第2版第2刷発行(2017年〇月〇日)の情報が記載されています。著者は八木山花子、発行者は星隆三郎、発行は青草の友社、印刷は川内印刷株式会社です。右側には「記録」の欄があり、著者(八木山花子)、書名(青草山の野生動物)、出版社(青草の友社)、発行年(2015年(第2版))が記入されています。奥付と記録の欄は、それぞれ「奥付」と「記録」というラベルが付いています。

図3-5 奥付と記録の例

(2) 雑誌論文の場合

著者と論文タイトルの他、掲載元の情報、すなわち、何という雑誌の、何巻何号(発行年)、何ページに掲載されたものかを記録する必要があります。ウェブ上で見つけた論文の場合でも同様で、掲載元の雑誌が存在する(図3-6)。URLを記録しただけでは、書誌情報とは言えない。掲載元がわからない場合は、CiNii Research [3.2参照]で論文名から検索するとよい。

20

第3章 文献の収集 Gathering Sources

図3-6は、ウェブ上で公開された論文のイメージを示しています。左側には「掲載元の雑誌」「『青草山研究』第52巻10号(2015年) pp.35-49」という情報が記載されています。右側には「原稿 紙子」「『青草山研究』のウェブ版」「HTML」「PDF」という情報が記載されています。中央には「ウェブ上で公開された論文のイメージ」というラベルが付いています。

図3-6 ウェブ上で公開された論文のイメージ

■何に記録するか

収集した文献は、整理しなければすぐに迷子になってしまいます。ExcelやWord、あるいは専用の文献管理ツールに記録しておくといよい。これらのツールは、本学でもいくつか無料で使えるものがあり、附属図書館HPの「学習研究サポート」(<http://www.library.tohoku.ac.jp/support/index.html>)で紹介している(2022年2月現在)。

■読書メモを取る

書誌情報に付記する形で、読書のメモを取るとよい。その際に気を付けなければならないのは、「著者の青草や考え」と、「自分の感想や考え」をはっきりと区別して記録することである(図3-7)。

メモをしっかりとることで、後に引用が必要になった時に、「あの大事な一節はどの文献のどこに書かれていたのか」と再度検索せずに済む。

図3-7は、文献記録の一例を示しています。左側には「書誌情報」と「日付」の欄があり、右側には「自分の考え、疑問に思ったこと、調べたいと思ったこと etc」という欄があります。中央には「著者の青草や考え」と「自分の感想や考え」の区別が示されています。

図3-7 文献記録の一例

21

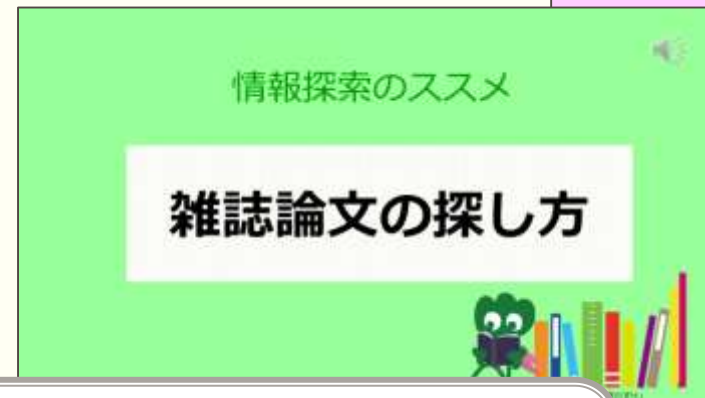
「東北大学レポート指南書」第3章より

②教材動画「情報探索のススメ」の提供

「情報探索のススメ」シリーズ

- 学習支援実施部会にて作成
(もともとの対面講習会資料を流用)
- 受講生は、授業時間外の課題として視聴
(視聴後の確認テストあり)

※それぞれ20～30分程度
※スタッフの声による読み上げ

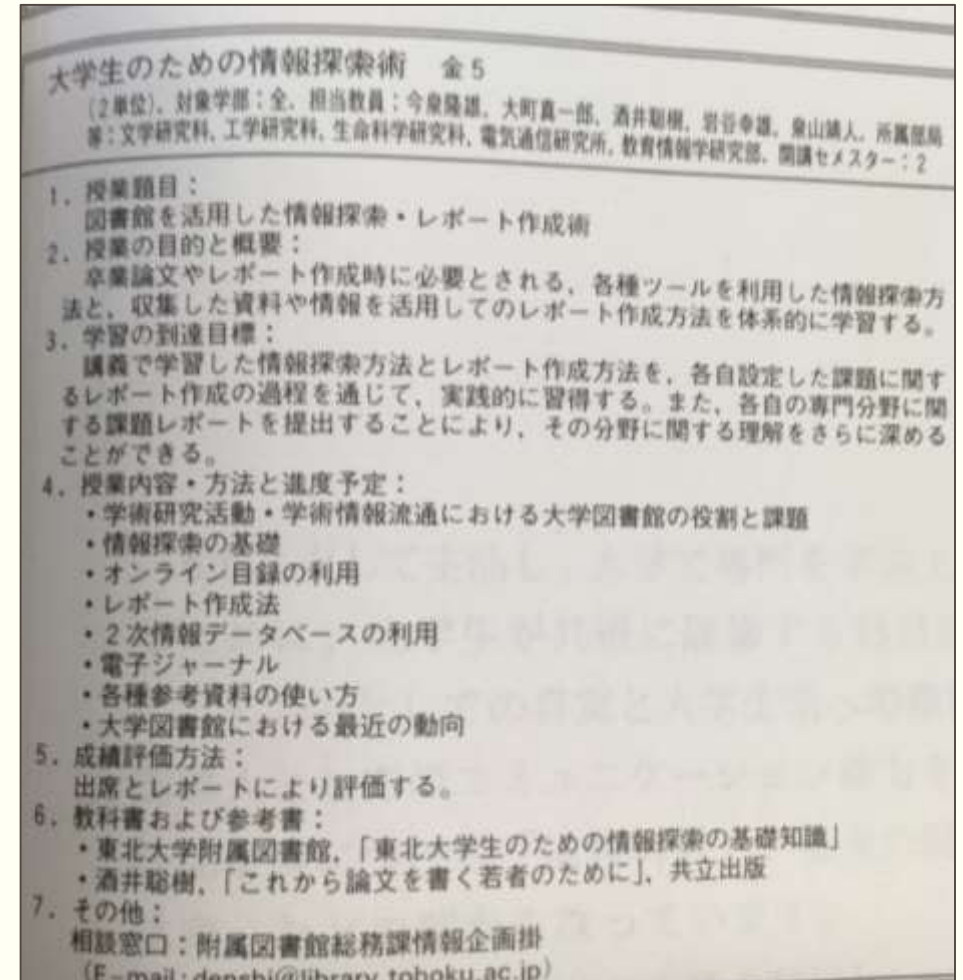


事例2：

**授業「中級アカデミック・ライティング：
現代的課題に関する文献講読と
レポート作成」への協力（教員との協働）**

授業「中級アカデミック・ライティング」とは

- 平成16年に「大学生のための情報探索術」としてスタート
- レポートや論文の書き方を知らない新入生に文章作成能力を養う機会を与える目的で開講
- 教員と職員が協力して運営してきた
- 授業名や内容をアップデートしながら現在に至る



平成16年度のシラバス（部分）

授業「中級アカデミック・ライティング」とは

令和2年度 全学教育貢献賞を受賞した、
「大学生のレポート作成入門」の後継科目

受賞理由：平成16年度から積み重ねてきた授業運営技術と、新しい企画を駆使して学生の満足度が高く優れた授業として成立させており、アカデミックスキルの実践教育として全学教育貢献賞に相応しいと判断した。

<http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/kouken/>



トロフィーと盾



東北大学新聞（469号）による報道

授業「中級アカデミック・ライティング」とは

教員による講義

- レポート作成法
- 研究生活の実際



図書館職員による
説明

- 資料探索実習
- 図書館の活用方法



高校とは異なる
「大学での研究や学び」を知る
&
実際にレポートを書く

現在の実施体制

附属図書館商議会

学習支援委員会

学習支援実施部会

学習支援委員会の主任務：

- 学習支援事業の方針策定
- 学習支援事業全体の企画・立案

委員会の方針に基づいた学習支援事業を具体的に計画し、遂行するための部会が、委員会の下に置かれている。

授業の実施体制

学習支援委員会 (教員)

- 現在の授業実施担当教員は以下の4名：
 - ・文学研究科1名（副館長）
 - ・高度教養教育・学生支援機構1名
 - ・生命科学研究科2名



学習支援実施部会 (図書館職員)

- 授業時間における直接的な関与は、5名ほど
- コロナ禍では授業の録画やアップロードも担当

令和4年度 講義スケジュール

START!!

15回の講義

締め切り

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 レポートとは何か？
- 第3-4回 人文社会科学の研究の実際について（図書館ツアー）
- 第5-6回 自然科学の研究の実際について（データベース実習）
- 第7回 テーマ決定、アウトライン作成
- 第8回 アウトライン確認、執筆要領説明
- 第9-11回 序論、本論、結論の書き方
- 第12回 引用方法の確認、初稿提出要領説明
- 第13-15回 初稿相互コメント、講評など

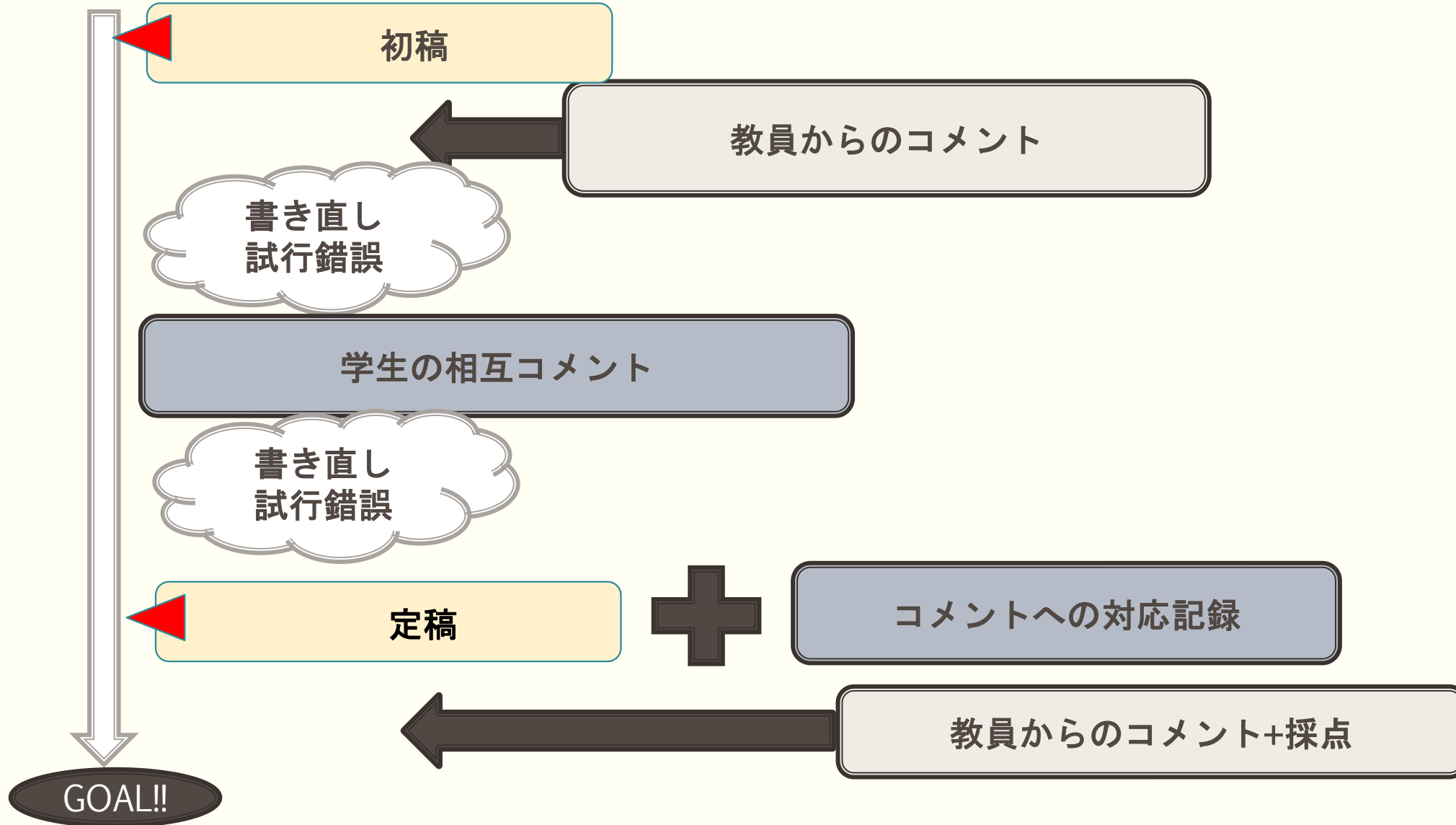
アウトライン

初稿

定稿・文献リスト

GOAL!!

授業の特徴



第3回 「人文社会科学における図書館の利用」

第一部：副館長（専門：イギリス中世史）が

学生と共に館内を巡りながら、配架場所や資料の解説を実施

- 新書コーナー・・・新書の特徴や、並び方、タイトルからわかること
- 学生閲覧室・・・どんな基準で選書しているか
- 背表紙の読書からわかること・・・研究テーマや研究者について
- 雑誌の配架コーナー・・・文系雑誌のオンライン化について
- 様々な分類法について・・・あくまでも便宜的なもの

東北大学の歴史と関連する分類について

などなど



学生閲覧室にて（令和3年度）

第3回 「人文社会科学における図書館の利用」

第二部：図書館職員（貴重書係）が担当

- 基本的な利用ルール
- 古典資料書庫内の見学
- 様々な形態の資料を知る
（卷子本、和本、一枚物、漢籍、西洋の古典など）
- 近年のデジタル化について
（以上、令和3年度の実施内容）

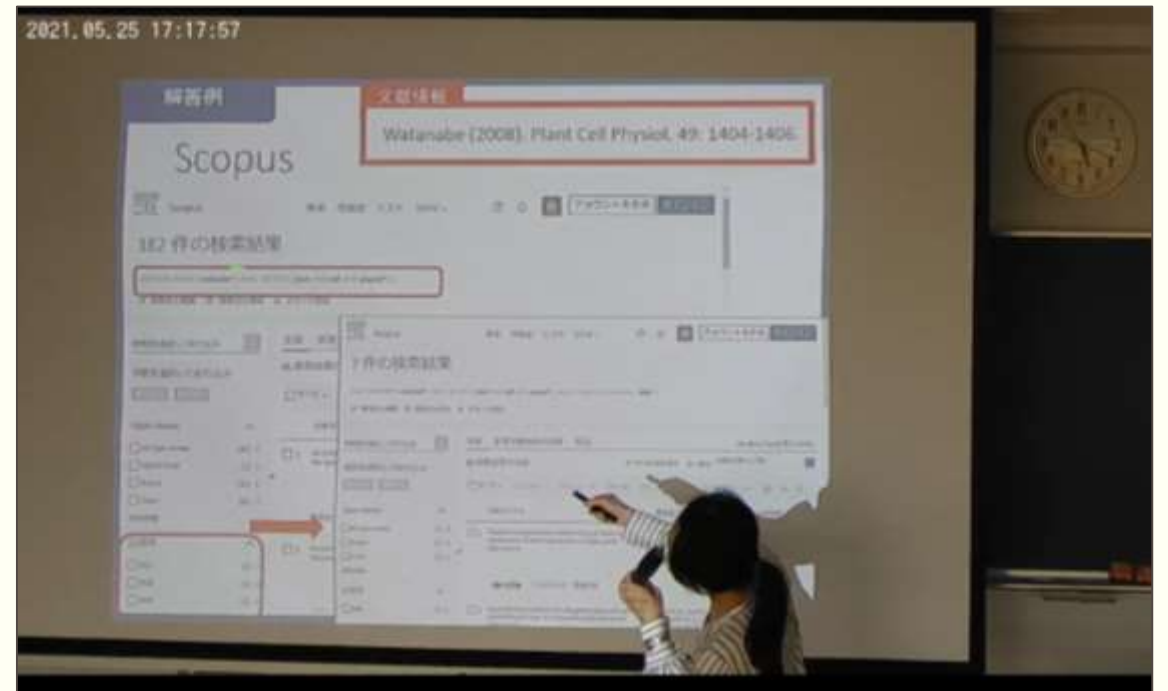


古典資料書庫での説明（令和3年度）

第6回 「自然科学における文献検索と引用」

図書館職員が教室での説明を担当

- 冒頭に担当教員から、このコマの意義を説明
- CiNii ArticlesやScopusを中心にデータベース解説
- 論文検索実習もあり
- 当日は13名対面参加、8名オンライン参加
録画も実施
- オンライン参加者向けに、チャットでも質問受付
(以上、令和3年度の実施内容)



第6回授業の様子（令和3年度・対面の様子）

事例3：

オーダーメイド講習会

(研究室や授業単位での
図書館講習会の実施)

オーダーメイド講習会とは

- 教員と図書館職員が、相談して講習内容を決める
- 学生グループの申し込みも可
- 場所は図書館や研究室
- メニュー例：

☆ OPACの使い方

☆ 雑誌論文の探し方

☆ 図書館ツアー

☆ MyLibraryの使い方

☆ 書庫ガイダンス

☆ 古典資料ガイダンス

..... などなど

附属図書館本館

オーダーメイド講習会のご案内

オーダーメイド講習会とは・・・

教員と図書館職員とで相談しながら、講習内容を決めていくオーダーメイド形式の講習会です。多くのメニューをそろえておりますので、日時・人数・場所・内容等、お気軽に相談・お申し込み下さい。

学生に図書館の利用方法を覚えてほしい

本格的なレポートを書く前に、論文データベースを使った検索方法を教えてほしい

研究分野に合わせた情報検索ツールを教えたい

日本有数の蔵書を持つ東北大図書館を活用してほしい

東北大学図書館の特色あるコレクションを紹介したい

==メニュー例==

- ▽図書館蔵書検索 (OPAC)
- ▽日本語論文・外国語論文の検索
- ▽新聞記事検索
- ▽図書館利用ガイダンス (文献複写・現物貸借依頼・レファレンス)
- ▽図書館ツアー
- ▽古典資料等見学
- ▽書庫ガイダンス

※その他、ご希望のデータベースやツールの準備の都合上、2週間前位までにお申し込みください。

【お問い合わせ・申し込み先】
附属図書館本館参考調査係 (内線) :

広報ポスター

オーダーメイド講習会：過去の実施例

例年の様子（コロナ禍より前）



教育心理学実験I@図書館



文学部心理学研究室@図書館

オーダーメイド講習会：過去の実施例

例年の様子（コロナ禍より前）



（右）（左）留学生クラスのための図書館ツアー（英語）

オーダーメイド講習会：コロナ禍での実施

- 対面時は、席の間隔を最大限に
- 動画教材「情報探索のススメ」
シリーズを活用
(その場で上映あるいはオンデマンド)
- 二部制にして、人数を最小限に
- オンラインでのリアルタイム配信（Microsoft TeamsやZoom）も実施



席の間隔を最大限にあけての実施

オーダーメイド講習会：コロナ禍での実施

●40人クラスの実施例

●4つに班分け

●二日間の予定に分け、 さらに、二部制で実施

当日スケジュールの一例

1日目：7月1日（木）

第1班（11名）&第2班（10名）

形式： 動画のオンデマンド配信とアンケート（視聴時間 80 分程度）
（動画公開期間～7/15）

動画の長さ	メニュー
（約 18 分）	図書の探し方
（約 23 分）	雑誌論文の探し方
（約 17 分）	新聞記事の探し方
（約 7 分）	MyLibrary の使い方
（約 6 分）	国立国会図書館デジタル送信サービス 紹介
（約 5 分）	アンケート記入

第3班（11名）&第4班（10名）

集合場所：13:00 図書館前の広場に集合。事務連絡の後、職員の誘導により、班別に行動。
形式： 対面での実施。

第3班	メニュー
13:05-13:45 ※大会議室	書庫ガイダンス （利用案内 および 書庫の見学）
13:55-14:20 2号館へ移動	古典資料ガイダンス （古典資料の説明、書庫の見学、利用案内）

終了後、班ごとに解散

第4班	メニュー
13:10-13:35 ※2号館入口	古典資料ガイダンス （古典資料の説明、書庫の見学、利用案内）
13:45-14:30 大会議室へ移動	書庫ガイダンス （利用案内 および 書庫の見学）

終了後、班ごとに解散

2日目： 7月8日（木）

第1班（11名）&第2班（10名）

集合場所：13:00 図書館前の広場に集合。事務連絡の後、職員の誘導により、班別に行動。
形式： 対面での実施。

第1班	メニュー
13:05-13:45 ※大会議室	書庫ガイダンス （利用案内 および 書庫の見学）
13:55-14:20 2号館へ移動	古典資料ガイダンス （古典資料の説明、書庫の見学、利用案内）

終了後、班ごとに解散

第2班	メニュー
13:10-13:35 ※2号館入口	古典資料ガイダンス （古典資料の説明、書庫の見学、利用案内）
13:45-14:30 大会議室へ移動	書庫ガイダンス （利用案内 および 書庫の見学）

終了後、班ごとに解散

第3班（11名）&第4班（10名）

形式： 動画のオンデマンド配信とアンケート（視聴時間 80 分程度）
（動画公開期間～7/15）

動画の長さ	メニュー
（約 18 分）	図書の探し方
（約 23 分）	雑誌論文の探し方
（約 17 分）	新聞記事の探し方
（約 7 分）	MyLibrary の使い方
（約 6 分）	国立国会図書館デジタル送信サービス 紹介
（約 5 分）	アンケート記入

事例4：

留学生コンシェルジュの活動 (留学生との協働)

留学生コンシェルジュとは

- 2012年に、急増する留学生へのサービス需要の高まりを背景に、創設されたサービス。
- 普段、デスクで図書館利用の相談にのる他、留学生向けの図書館ガイダンスやツアー、国際交流イベントなど様々な活動に従事している。
- 2022年後期は10名が在籍。国籍はイタリア、イラン、インドネシア、北マケドニア、中国(3)、ブラジル、ミャンマー(2)
- 留学生課の予算で実施している。



2022年前期ポスター

留学生コンシェルジュデスク（図書館利用に関する相談窓口）

- レファレンスデスクと同じ並びに配置
- スケジュールと対応言語をカレンダーに公開
- コロナ禍で休止期間があったが現在は感染対策を行った上で、再開している



コロナ禍での留学生コンシェルジュデスク

グローバル学習室の選書協力と展示



図書展示



コロナ前：国際交流イベントや、図書館多言語ガイダンスを実施

過去に実施した様々なイベントのポスター



グローバルラーニングセンター（GLC）との連携

Library Guidance（オンライン）： イベント「Welcome Week」への参加

- グローバルラーニングセンター（GLC）主催の
Welcome Weekプログラムの一つとして参加。
図書館の基本的な情報と使い方を説明。
- 2022年春は、英語と中国語で実施。
秋は英語を実施予定。

2021 SPRING Welcome Week Online!
予約不要！
FOR INTERNATIONAL STUDENTS

Welcome Week Onlineでは、新しく入学した留学生をはじめ東北大学に在籍する留学生の皆さん向けに留学生活、仙台での生活に必要な情報を提供します。

月	火	水	木	金
			8 留学生ヘルプデスクの紹介	9 キャンパスツアー (青葉山・北青葉山)
12	13	14	15	16
COVID-19	図書館ガイダンス (中国語)	ゴミの捨て方	図書館ガイダンス (英語)	地震への備え
19	20	21	22	23
交通ルール	東北大学のクラブ /サークル活動	COVID-19		留学生ヘルプデスク の紹介
26	27	28	29	30
地震への備え	ゴミの捨て方	キャンパスツアー (星陵・片平)		

◆「図書館ガイダンス」以外のセッションは、**日本語と英語**で行います。
◆同じ名前のセッションは同じ内容です。
◆プログラム参加費は無料です。
◆セッション時間以外に入場しないです。
◆セッションは記録のため録画する予定です。発言時の音声、画面の公開を希望しない場合は、お問い合わせ下さい。

セッション時間 12:10-12:50
途中入室・退室もOK！

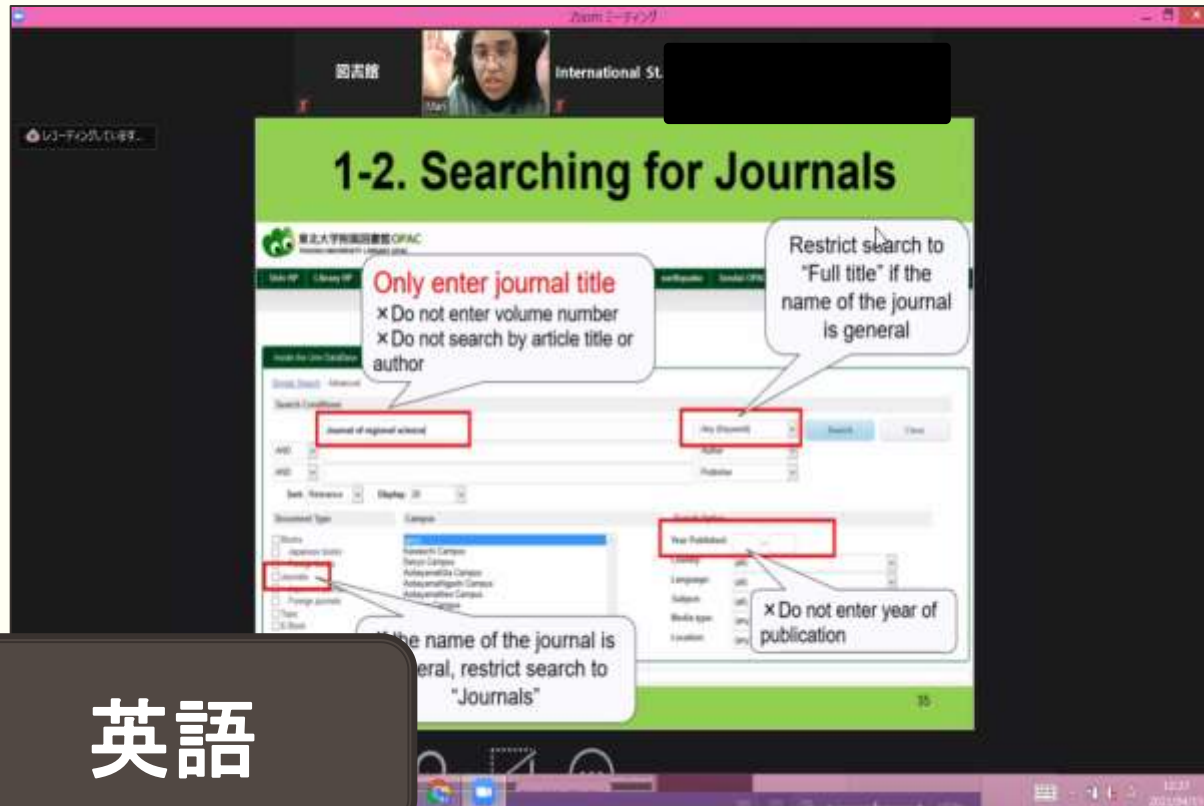
参加方法
STEP1 Google Classroomにアクセス
STEP2 東北大学DC mail アカウントでログイン
STEP3 クラスコード(wfm3mxf)を入れて「International Student Online Help Desk」クラスルームに参加
STEP4 クラスルーム内の「Welcome Week 2021 Spring」に表示してあるZoomリンクから参加

Contact 東北大学高度教育教員・学生支援機構 グローバルラーニングセンター Email: welcome_week@grp.tohoku.ac.jp

Welcome Week ポスター（2021春）

グローバルラーニングセンター（GLC）との連携

Library Guidance（オンライン）： イベント「Welcome Week」への参加



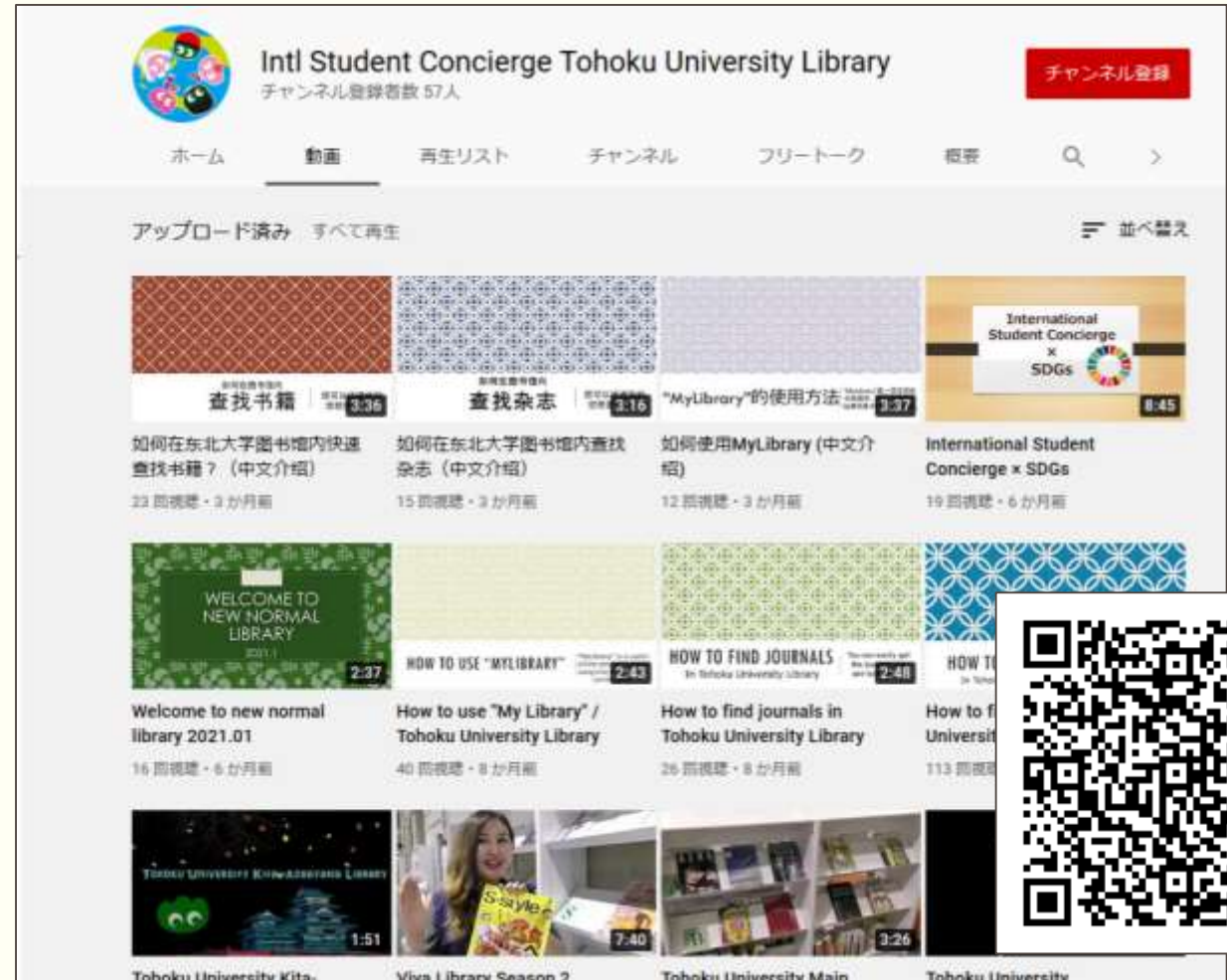
英語



中国語

動画教材の翻訳① YouTube用の公開動画

- パワーポイントで作成
- 軽めの音楽に合わせて
(ナレーションなし)
- 2-3分で見られる
- 音楽はフリー音源を使用



<https://www.youtube.com/channel/UCvsVxTR-Mp8FMfi1DWmAb6w/videos>

動画教材の翻訳② 情報探索のススメ 英語版・中国語版

- 図書の探し方
- 雑誌論文の探し方
- MyLibraryの使い方

图书馆便利线上服务
MyLibrary的使用方法



**How to search for
articles**

in Tohoku University Library



**How to search for
books**

in Tohoku University Library.



※それぞれ20～30分程度
※音声は市販の読み上げソフトを使用

Newsletter の発行

The Concierge

The Tohoku University Main Library Newsletter in association with 'The Sentinel'
Volume 05 Issue 02

Library Guidance at "Welcome Week"

In April, the library guidance was held online via Zoom as an event of "Welcome Week". The event was organized by Global Learning Center of Tohoku University for newly arrived international students. On the 13th of April, Gan Wen Shuoh from Malaysia, one of the staff members of the International Student Concierge Service, carried out a 30-minutes presentation in Chinese language for the Library Guidance.



The presenter of the Library Guidance

The aim of this event was to give guidance and support to the new students whose mother tongue is Chinese. After attending to the guidance, students will understand how to use the library facilities and how to search for useful books or journals. Due to the fact that students were not able to meet face to face, library guided tour was cancelled and the overall guidance was held in online for 40 minutes (30 minutes for presentation and 10 minutes for Q&A).

The guidance began with the introduction by Associate Professor Rumi Watanabe of the Global Learning Center

to the presenter, power point presentation followed. The presentation history of the library and the other sub-libraries hours to the list.

Next, the student information about the library in the main library during the pandemic time of COVID-19 were told to sanitise their body temperature and the main library. Besides also given guidance about library facilities in ample, they were group study area, new seats arrangement for online meeting followed to talk.

Next, Gan gave how to search for the library Online (OPAC). Other the use of online Articles are also students.

Finally, the presentation of the Concierge Desk and besides other During the Q&A students asked about website and OP campus. The answer although there are

The Concierge

The Tohoku University Main Library Newsletter in association with 'The Sentinel'

Volume 05 Issue 03



July 2021

Kiya Okhlopko Four Years of Working as an International Student Concierge Member

I joined Tohoku University in April 2015 as a research student with the support of the MEXT scholarship and spent the next two years having fun, engaging in many intercultural activities, and preparing for my Master's entrance exam at the Department of Japanese Literature.

With the help of my friends, I found two part-time jobs from the very first month in Sendai – teaching Russian language in one of the city's learning centers and organizing monthly debates and discussions in English at the TU International Oasis. That is where I met Yoshiue san (former librarian) and Nishimura san (librarian) for the first time. They came to the International Oasis to recruit participants for one of the library's recurring events – Bibliobattle. I took part in it by presenting Lafcadio Hearn's *Kwaidan* book and accidentally I

Nishimura san, Ueno san and the others, and to be surrounded by the awesome library team throughout these years! I was able to help out inquiries of many international students, such as how to find a certain book, how to connect to the Eduroam campus Wi-Fi service and how to print out documents using library computers. Among these help I have offered, my favorite is giving a guidance tour for the newcomers and TU visitors from different countries. In those occasions, I could take them around the library, show them various areas such as the basement stack room and the global learning room, and share useful information about the library services like self-checkout machines, lockers and the laptop lending corner.



Library Guidance and Tour (2019, 2017)

It was also fun to participate in the Welcome week, the Global session and the

Manga Corner

This corner is about things that happen in the library, especially when you are a new student at Tohoku University.

Hello! I am Marina from Brazil! I like drawing for fun, so I hope you have fun reading too!





本日のまとめ

本日のまとめ

① 大学図書館における情報リテラシー教育支援とはどのようなものを理解する

- 図書館が担っているのは、大学の情報リテラシー教育の一部である（全体ではない）
- 図書館の利用方法を学ぶことは、手段であって目的ではない

② 大学図書館に何が求められているかを理解する

- 図書館以外の部署などと協力することで、一層効果的な情報リテラシー教育の支援が可能になる

③ 様々な事例を知る（東北大学の事例）

- 初年次必修授業「学問論」への支援
- 授業「中級アカデミック・ライティング」への支援
- オーダーメイド講習会
- 留学生コンシェルジュサービス

今後に向けて

- ① 学術情報リテラシー教育の基本的な概念を理解する
- ② 大学図書館に何が求められているかを理解する
- ③ 様々な事例を知る（東北大+短期研修での情報収集）

①②③+各館の事情

||

今後のサービス展開を考えるための基礎